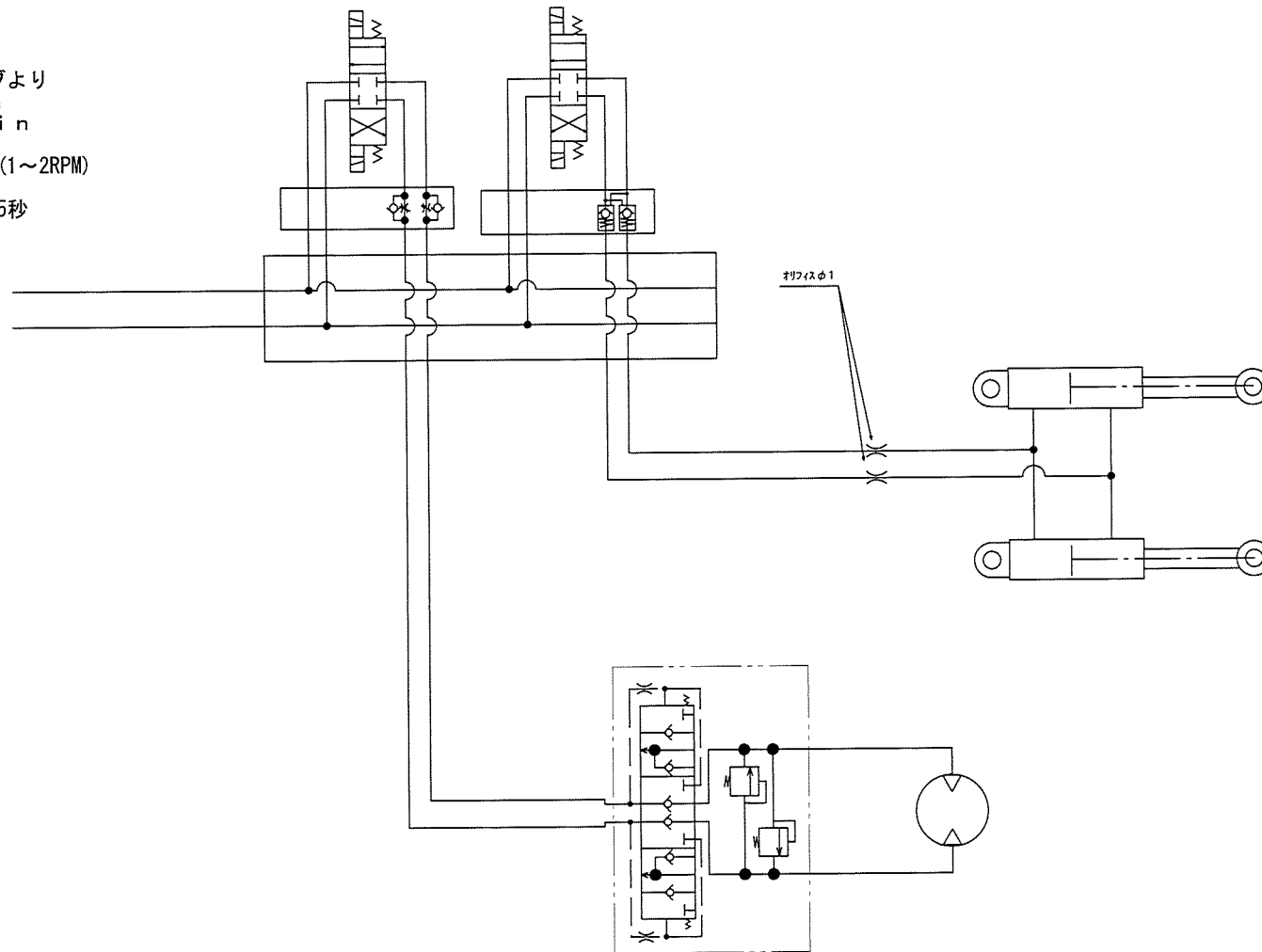
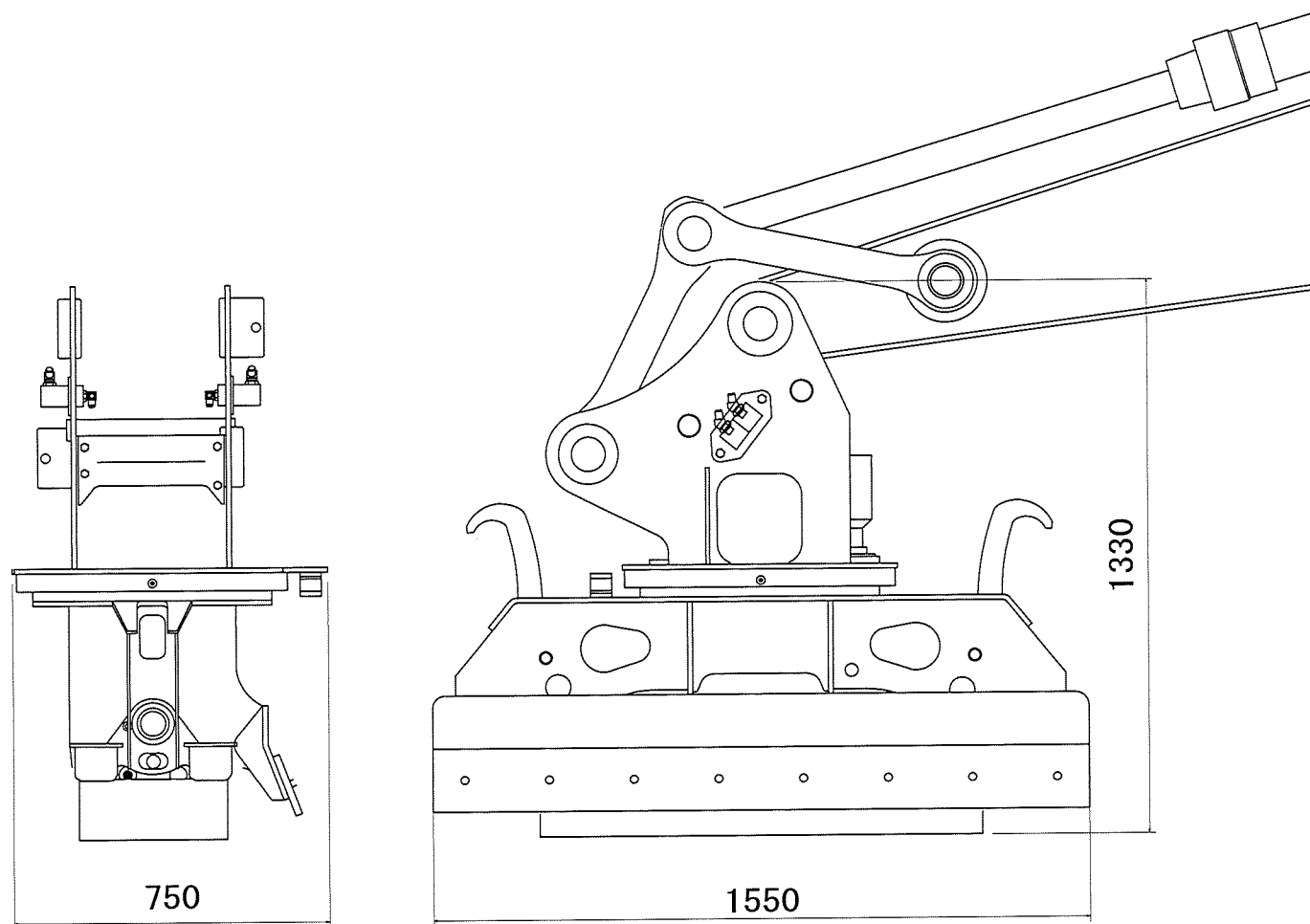


台車側
 コントロールバルブより
 17.6MPa
 30~50L/min
 左右旋回速度 25~30秒(1~2RPM)
 爪開閉速度 3~5秒



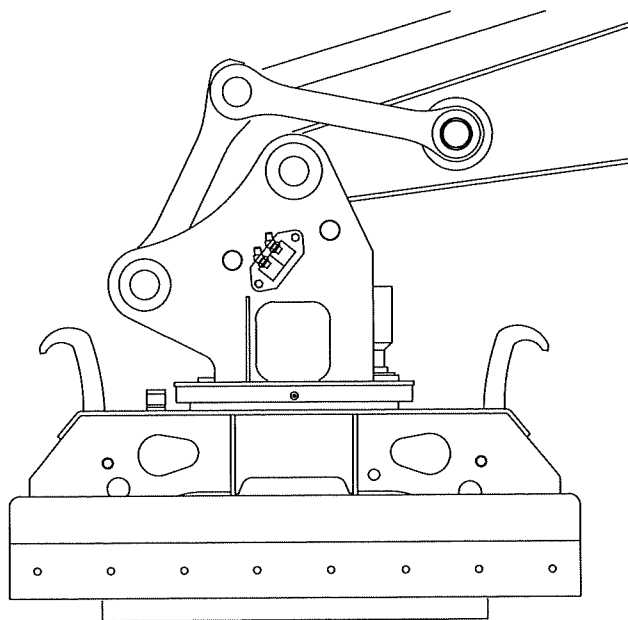
※ATT配管のバルブがオープンスプールの場合、カウンターバランス弁が動作するまでにタイムラグが発生し旋回を止めたときに流れる様な動作が起こりますが製品の品質には問題ありません。

マツトフューチャー70
型式: SMF-70



△注意・危険

- 1、重量物を取り扱う為周囲状況には十分注意してください。
場合によっては立入禁止などの制限を行ってください。
- 2、マグネット吸着物の下には手足など人体を入れないでください。
落下した場合重大な事故になります。
- 3、マグネットはバッテリー電源です。連続・長時間作業は
バッテリー上がりの原因になりますので注意してください。
常にオルタネーター（ダイナモ）のチャージを必要としますので、
Hiアイドル（エンジン高回転）にて使用してください。
また作業終了時はすぐにエンジンを停止せず、
10～15分程度のチャージ運転を行ってください。
- 4、バッテリーのメンテナンス（バッテリー液量、比重など）
を毎日行ってください。
- 5、敷板を旋回させるときは、敷板を水平にして行ってください。
敷板の旋回範囲に人や障害物が無いことを確認してください。
- 6、敷板の移動はブーム・アーム又は旋回にて行ってください。
走行操作は上下振動などが多く脱落の危険があります。
- 7、吸着位置は常に敷板の中央に来るように調整してください。
- 8、敷板表面に異物のあるまま吸着しないでください。
必ず取除いてください。平であることを確認してください。
吸着面が平らでない場合敷板の落下やズレの原因になり
重大な事故になる可能性があります。

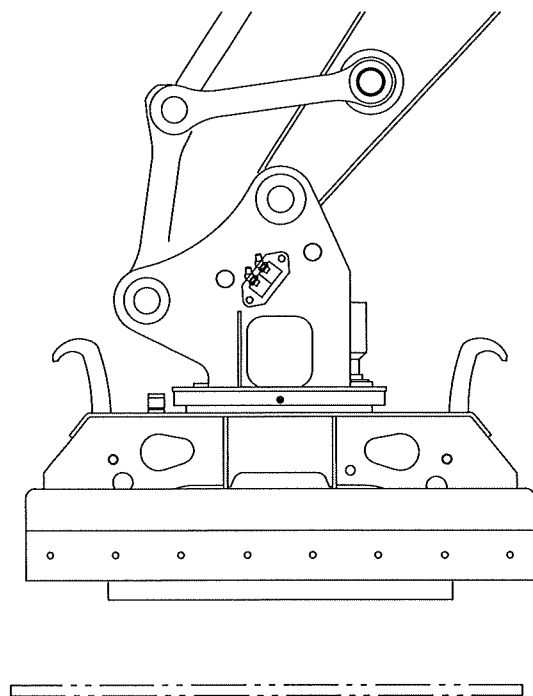


△危険
マグネットを試運転又は運転する場合、付近に金属があると
不意に吸着され手足を挟まれるなど重大な事故に至る可能性が
あります。
周囲に金属を置かない、周囲に人を近づかない様に徹底してください。

使用方法 注意事項

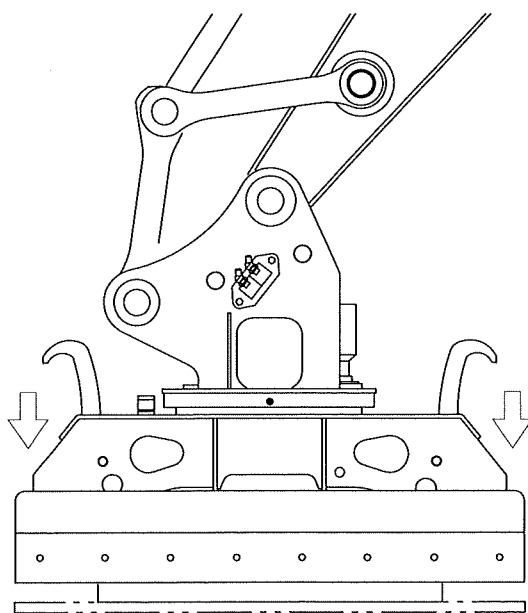
ステップ1

敷板の長手が正面に来るようにショベルを配置します。
敷板の表面に土砂など異物がある場合はスクレーパーなどで
取り除いてください。
敷板の中央にマットフューチャーが来るようにアームを調整してください。



ステップ2

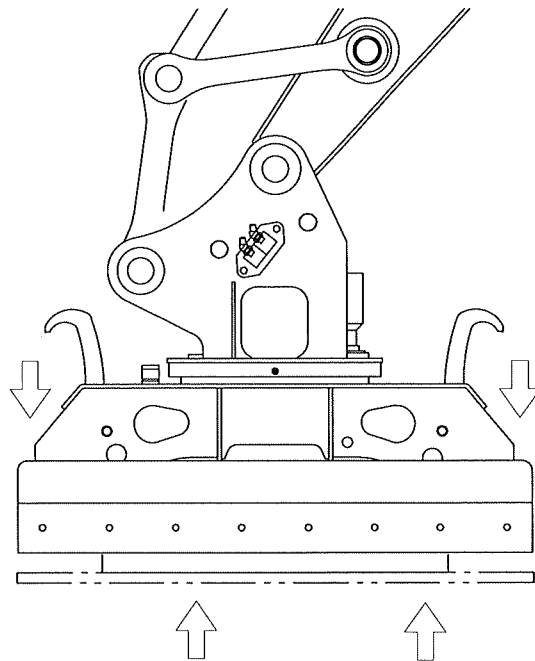
マットフューチャーを静かに敷板に着地させてください。



マットフューチャー

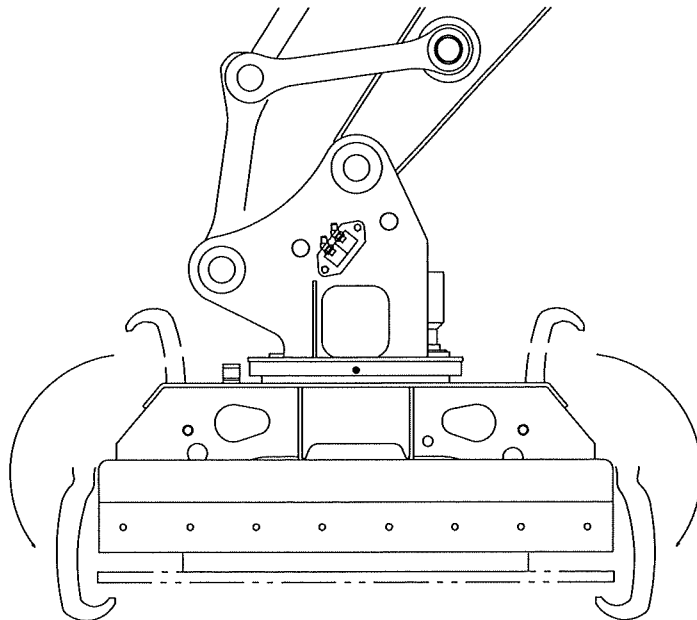
ステップ3

マットフューチャーのマグネットをON（入り）にしてください。
静かにアームを上昇させてください。
敷板が吸着されていることを確認してください。



ステップ4

マットフューチャーの油圧を切替えて落下防止フックを張り出して装着位置にしてください。
目的の場所へ移動してください。



ステップ5

目的の場所にてフックを格納してください。
静かに着地させてください。
マグネットをOFF（切）にしてください。

給脂箇所と給脂量

No	名称	給脂量	間隔	給脂箇所
①	旋回ピニオンギヤ	4 g	8 h	1箇所
②	旋回サークルギヤ	4 g	8 h	1箇所
③	マグネット支点	4 g	8 h	2箇所
④	シリンダクレビス	2 g	8 h	2箇所
⑤	シリンダクレビス	2 g	8 h	2箇所
⑥	リンク支点	4 g	8 h	2箇所
⑦	アーム支点	2 g	8 h	2箇所

